

親子で本に親しもう ～絵本の紹介～

11月11日(金)「親の学び研修会」資料
会場 金成幼稚園

『ちょっとだけ』(福音館書店)

瀧村 有子 作・鈴木 永子 絵

・赤ちゃんが生まれ、お姉ちゃんになったことで自分の気持ちをぐっと抑えている子供の思いと母親の愛情が伝わる絵本。



『おこだでませんように』(小学館)

くすのき しげのり 作・石井 聖岳 絵

・小学1年の「ぼく」は、家でも学校でも怒られてばかり。そんな「ぼく」が七夕の短冊に書いた願い事とは…



『くれよんのくろちゃん』(童心社)

なかや みわ 作・絵

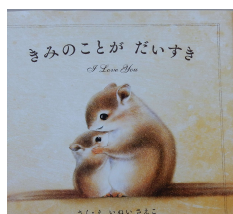
・仲間のクレヨンたちが、楽しくお絵かきをする中、出番のない黒色クレヨンのくろちゃんの個性が輝く絵本。



『きみのことがだいすき』(パイ インターナショナル)

いぬい さえこ 作・絵

・いろいろな動物たちの親子の愛や友達への思いが、可愛らしい絵とすてきな言葉で語られている絵本。



『きょうはなんのひ?』(福音館書店)

瀬田 貞二 作・林 明子 絵

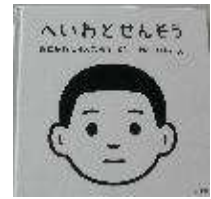
・娘からの「宝探し」のような数々の手紙をたどっていきながら、家族の温もりと絆の深さが伝わってくる絵本。



『へいわとせんそう』(ブロンズ新社)

谷川 俊太郎 作・Noritake 絵

・見開きページの左右に、子供の表情や親子の姿をシンプルに対比させて描いた絵から、平和の大切さをやわらかく伝えてくれる絵本



『としょかん ライオン』(岩崎書店)

ミッシェル・ヌードセン 作

・きまりや優先すべき大切なこととは何かを、突然、ライオンがやってきた図書館を舞台に、親子で一緒に考えることができる絵本。



『おかあさん ありがとう』(金の星社)

みやにし たつや 作・絵

・欲しいおもちゃをやっと買ってもらえた「ぼく」は、ある日、生まれたときの様子をお父さんから聞く…。

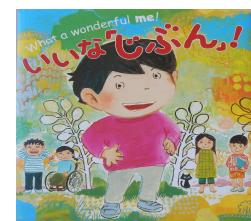
同作家の『おかあさんだいすきだよ』と『おかあさんごめんなさい』もお薦め。



『いいな「じぶん」!』(世界文化社)

くすのき しげのり 作・こぼ ようこ 絵

・自分もまわりの友達も、知らない世界中の人も、それぞれ違う個性があり、尊重したいと感じる絵本。



『だいじょうぶだよ モリス』(飛鳥新社)

カール ヨハーン エリー 著

・家族で引っ越しをして、新しい生活が始まったモリスに、次々と不安や心配事が起きる。そんなモリスに魔法の言葉が掛けられる…。



『いのちをいただく』（講談社）

内田 美智子 作・魚戸 おさむ 絵

・肉牛を育てる家庭で、小さい時からかわいがってきた牛との別れの日が来る。命の重みと食の大切さを問いかける絵本。



『てん』（あすなろ書房）

ピーター レイノルズ 作

・お絵描きが嫌いで、授業でやけになって描いた「点」だけの絵を、先生に認められたことで、子供の意識と行動が変わっていくお話。



『イソップ童話』（成美堂出版）

渡辺 弥生 監修

・古くから読み継がれている童話集。短いお話の中に子供にも感じ取れる教訓が散りばめられている。



『しりたがりやのふくろうぼうや』（評論社）

マイク サラー 作・デービッド ピスナー 絵

・何でも興味を持ち、知りたがるふくろうの坊やと、自分で確かめさせながらも温かく見守る母親の姿を描いた絵本。



『おやおやじゅくへようこそ』（ポプラ社）

浜田 桂子 作・絵

・親たちが、子育てを学びに塾へ通うお話。塾の先生は子供たちで時間割に沿って学習やテストが行われる。逆転の発想を楽しみながら子供の思いが伝わる絵本。同じ作家の絵本『あげます。』もお勧め。



『わたしのそばできいていて』（WAVE出版）

リサ パップ 作

・字を読むことが苦手な少女マディが図書館で出会った犬との交流を通して、苦手だったことを克服していく心温まるお話。



『ねこのピート』（ひさかたチャイルド）

エリック・リトウィン 作 ジェームス・ディーン 絵

・ねこのピートが、真新しい靴をはいて出かけるお話。行く先々で、大好きな白い靴の色が変わってしまうが、ピートの前向きな受け止め方が楽しい絵本。



『ママはあなたを愛している、うそをつかなくていいのよ』（潮出版社）

アグネス・チャン 作・絵（潮出版社）

・クッキーを約束より多く食べてしまい、嘘をついてしまった子供に、親はどう対応したらよいか。作者の実体験から描かれた絵本。



『くみたて』（福音館書店）

田中 達也 作

・日常生活にある“もの”を想像力を働かせて見てみることの楽しさを、ページをめくるごとに感じる絵本。



『こわいきもちとちよつとのゆうき』（星雲社）

たかみや かなえ 作・おぼら ふうこ 絵

・急な予定の変更にとまどったり、友達と話すことも苦手だったりする1年生の男の子が、祖母の話聞いて、勇気を出して友達に話しかけてみるお話。

